

## 未来を創るために不可欠な歴史認識

岡澤憲芙さま

今崎牧生

このたびは、わたしたちのために講義に来て下さり、ありがとうございました。膨大な知識と考察を、90分という枠にはめるのはさぞ大変でいらしたかと思いますが、わかりやすい、まとまったスライドや印象的な写真など、記憶に残る興味深い講義でした。由紀さんのご配慮で、大学院のゼミから参加できた、直接質問が出来る機会を得られ、自分自身の小さな市民活動を続ける示唆をいただけたように思います。

途中、丘の上の銅像の写真で、「男性は前を向き女性は勇気があるので過去も振り返られる」とおっしゃられました。スウェーデンという国の成り立ちや、政治体制、国民性などが形成された重要な歴史的事実について、ターニングポイントを抑えながら体系的に教えて頂いたのはありがたい学びとなりました。遠回りに思えても、今の政治の事を考える時に、事実関係に基づいた歴史認識を国民がどれだけ共有しているかは、未来を作るにあたり欠かす事の出来ないことだと強く感じています。日本でもっともよく使われている教科書に、スウェーデンの事が数行しか書かれていないのは、かなり意図的なのでは？とってしまいます。特に第二次大戦を挟み1932年～1976年社民党が44年長期安定政権を維持し、中立国であったことは福祉国家を築く大きな礎だった事を知りました。

講義は最初に「固定観念から自由になれ」と始まりましたが、自分にとって一番何気なく思い込んでいたことを気づかせていただいたのは、2大政党制の事です。戦後のある時期からずっと政権を取り続けている今の自民党に対抗する政党がないことについて、歯がゆさを感じていましたが、それは誤りであることに気付きました。日本のような議院内閣制の政党政治では、権力が一つのところに集中することは現在の政権を見ればわかるように非常に危険なことです。二つの選択肢では、一方が巨大になったときあつという間に今のような独裁政権が出来、三権分立さえ子供に教えられない状況です。その根本には小選挙区比例代表という選挙制度の問題があり、国民の意思が反映しにくくなるのは当然のことです。その制度が非自民の細川連立政権のもと創られたのは皮肉なことです。民主主義は手続きです。この手続きは、多様な意見をあれこれと検討した挙句に時間をかけ何かを決定していくというほうが、より悪くない選択をする可能性が高まるはずだと考えます。

その点でスウェーデンが少数与党と幾つもの多数野党の調節をくり返しなが政策決定を行ってきたプロセスの積み重ねが、国民の満足度の高い国家を作ったことがよくわかりました。これは国内だけでなく国際間での調節機能をも高めてきたことも、中立国であり続けられた重要な点ではないかと思えます。

日本とスウェーデンとは科学技術立国である点においてよく似ているにもかかわらず、現在大きく水をあけられています。スウェーデンが発明し市場で優位を保ったものを調べてみましたが、冷蔵庫・掃除機を最初に作り大企業のエレクトロラックス、マウスのMionix、

無料音楽配信のスポッティファイ、スカイプ、ペースメーカーのエレマ・ショーナンデル。枚挙にいとまがありません。確かにニッチな製品・サービスではありますが、今に近づくほど、多くは本社がスウェーデンにあり世界中で使われているというグローバルなものです。

日本のグローバル企業といったものには、サプライチェーンがグローバルであり日本製というブランドがついているというだけで、トヨタでさえ日本工場は 2 割にも満たないという意味のグローバルになってしまいます。これでは法人税も雇用も国内にとどまらないので、国としての国際競争力にほとんど寄与しなくなります。たしかスウェーデンの場合、競争力のない会社が潰れることに国は手を貸しませんが、雇用について守ると聞いています。しっかりとした労働組合が残っているからこそできることです。日本は会社を守るために国は多額の税金を投入しますが、労働者は解雇されてもセーフティーネットはありません。

特に 90 年代の不況の時、研究部門のようなすぐに成果が上がらない部署の人員を削り、多大な規模で頭脳流出と技術流出を放置しました。人を大切にしなかったことが結果として今の長引く日本の経済停滞を招いていると考えられます。ものづくり立国としてほんの一瞬世界に誇っていた日本が、なぜこうなったのか、身近な例ではありますが、わたくしの知人が某会社で携帯電話を小型化するにあたって、当時とても重要なパーツであった水晶体で周波数を感知するパーツを作り上げました。その人は会社に対してすぐに特許を取るようにと何度も説得をしたそうですが、会社はその重要性に気付かず、その技術は知的財産権フリーの状態の世界中に使われてしまうことになり、小型携帯電話の初期のころ、日本人はノキアの携帯を買うことになりました。身近にもこのような例があるという事は、おそらく大きなイノベーションがあった時期に、日本国内で既にできていた技術が、長期的視点が欠けているばかりに多くあったのではないかと推測しています。

よく政治家や官僚が悪いと言っておくと、さもりベラルであるかのように見えますが、個人的にはそれは上っ面だと感じます。談合・天下り・口利きなどを今更問題にしたところで、日本の企業風土を長年かけて作り上げてきたのは自分たちに他ならない。隅々まで不透明に水面下で緻密に構築された、企業と政治の一体となった硬直化した日本の姿を変えることは、絶望的に思えます。

およその既得権者は、本音では「公開」を嫌います。人権としての情報公開の自由を奪う「秘密保護法」をあっさり許してしまった。スウェーデンのお話からなぜ日本がそうなったか理解できるように思えました。

ただ、先生が力強くおっしゃったように「平和こそ福祉である」、という言葉には深く共感いたしました。少なくとも 70 年間日本は直接的な戦争はしていません。反面教師として自分たちで食べ物から作り、地域に根付いた小さなコミュニティを大切にするような若い人たちを、身近にみかけるようになりました。そこには、かすかに希望が見えます。

個人として、日本も日本人も好きです。でも、イングルッド・バーグマンも大好きです。長文にお付き合い頂きありがとうございました。